

賛成派と反対派議論

神大がオンラインシンポ



横浜市が進めるカジノを含む統合型リゾート施設（IR）誘致を巡り、神奈川県大法学研究所は26日、賛成派と反対派が議論し、IRのメリットとデメリットを多角的に検証するオンラインシンポジウムを開いた。

基調講演では、国会審議

を訴えた。

パネルディスカッションでは神奈川県大法学研究所の共同研究グループが市IR市民説明会のアンケート結果分析を発表。「回答者層には無視できない偏りがあり、市民全体の意見を科学的に正確に推定したものはいえない」と指摘した。

主催した神奈川県大によると、市に同シンポへの参加を打診したが、現段階では講演や登壇は難しいとの回答があったという。シンポでは、林文子市長の広報動画を上映し、疑問点に対する市の回答を紹介した。

（三木 崇）

での参考人質疑に出席した賛成派と反対派の専門家が登壇。東洋大国際観光学部教授の佐々木一彰は、誘致の効果として「横浜ブランドを再構築する一つのきっかけになる」と説明。経済的利益につながるとして賛成の考えを示した。一方、静岡大人文社会科学部の鳥畑与一教授は「市場の変化を無視した過大投資のつけが自治体に転嫁される危険性がある」と指摘して反対